

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 6 月 14 日現在

機関番号：13103

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25285209

研究課題名(和文) 戦前期における中等諸学校(師範学校)生徒のアジア認識に関する総合的研究

研究課題名(英文) Comprehensive Study on Asian recognition of Secondary Schools (Normal School) students in the prewar period

研究代表者

梅野 正信 (UMENO, MASANOBU)

上越教育大学・学校教育研究科(研究院)・教授

研究者番号：50203584

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 10,800,000円

研究成果の概要(和文)：戦前期に日本の統治地域で発行された校友会雑誌を用い、戦前期の生徒らが置かれていた思想状況を、アジア認識に焦点をあてて考察した。朝鮮半島、台湾、中国東北部の生徒の記述を考察することは、戦後に指導的役割を果たした中等学校出身者のアジア認識の原型をあきらかにする意味で現代的課題に応えるものである。本研究では、主要都市の主要中等学校(中学校、高等女学校、師範学校)の校友会雑誌を数多く収集し分析した。また、2014年度は教育史学会(11/5)にコロキウムで、2015年度は台湾師範大学での国際シンポジウムに本研究者のほぼ全員が参加もしくは招聘された。

研究成果の概要(英文)：The Asia recognition of secondary school students that lived under occupied of Japan, had powerful impacts to the post war East Asia. In this study, we analyzed the Asia recognition of students in the pre-war period using the Alumni magazine that published in the Japanese territory in the prewar period.

For the analysis of the description of students in Korean Peninsula, or Taiwan, or Northeast China, we collected numerous Alumni magazine of the main secondary school of the major cities was.

On the Colloquium of the Association of History of Education 2014, we were operating in all of us. On The International symposium in Taiwan Normal University 2015, we almost everyone had be invited, and had announced.

研究分野：教育史

キーワード：校友会雑誌 師範学校 中等学校 植民地教育 東アジア

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 戦前期の中等諸学校(中学校, 高等女学校, 実業学校, 師範学校)では校友会雑誌が刊行されていた。それらは, 日常的な教育活動や生徒達が造りあげた「学校文化」の貴重な記録ともなった。戦前期のアジア認識は, 思想家や政治家, 大人, 大学生や高等学校学生を対象とした分析・研究はみられるが, 古谷哲夫『近代日本のアジア認識』(1994), 青木保「近代日本のアジア認識 文化の不在」(1999), 並木頼寿『日本のアジア認識』(2008)の論考では, 中等学校生徒を対象とした考察は必ずしも中心になっていない。

(2) 校友会雑誌に描かれた中等諸学校生徒の認識は, 学校の実質的検閲下にあったという限界を持つが, 学徒が残した書簡(『きけわだつみのこえ』など)が検閲を受けながら資料的価値を有することと同様, 戦後のアジア認識につながる裾野の歴史認識として見直される必要がある。

(3) 校友会雑誌の研究では, 斉藤利彦・市川雅美「旧制中学校における校友会雑誌の研究」(2008), 「旧制中等諸学校の『校友会誌』にみる学校文化の諸相の研究と史料のデータベース化」(斉藤利彦ほか 2009~2012)がみられたが, 日本人子弟を考察の対象とするものが多く, 植民地統治期における被統治民衆子弟を対象とし, 今日に至るアジア認識, 日本認識の変遷に焦点をあてた研究は, 十分に組み込まれているとはいえない状況にあった。

## 2. 研究の目的

(1) 斉藤利彦(2008)が, 『校友会雑誌』の

内容の検討において分析の視点としたのは, 「時代認識」「芸術・文芸・スポーツ」「職業意識」「教師観・学校観」「家族観」であった。本研究は, 斉藤の研究をふまえ, 日本統治下にあった中等諸学校, 師範学校の『校友会雑誌』に掲載された記述から, そこに描かれた「アジア認識」を考察し比較する。

(2) 戦前期における青少年層のアジア認識は, 対象となる層の広がり地域性から, 戦前戦後にわたる日本のアジア認識の基底を形成した部分も, 少なくない。また, 戦前期アジア認識を対象化, 相対化, 自制化した形でのアジア認識の自省的変革の契機を経ないまま, 戦後冷戦期とその終焉を経て今日に至る日本のアジア認識の基本的要素, 限界を確認することにもなろう。戦前の青少年層のアジア認識が, 断絶と連続を経て, 今日のアジア諸国, とりわけ中国, 台湾, 韓国の対日本認識においてどのような底流となったのか, 本研究は, 戦前期の教育史研究であるとともに, 今日の日及び日本の教育を, 戦前期を歴史の鏡として実証し検証する, 教育史本来の役割を持つ研究といえる。戦前期は, 台湾諸島, 朝鮮半島, 中国東北地域において, 日本人と植民地統治下の諸国民を対象とした中等諸学校と, 学校教師を養成する師範学校が設置・運営されてきた。また, 現在の台湾, 韓国, 中国東北部に設置されていた学校では, 統治下の人々が日本の統治に従う形で教職に就く道を選んだ生徒達が存在した。中等教育段階のアジア認識を対象とすることの意義は大きい。

(3) 本研究では, 1) 主要な中等学校(中学校, 高等女学校, 師範学校)の校友会雑誌を収集, 整理し, 2) 戦前期のアジア認識を中心に考察を加え, 中等諸学校の校友会雑誌に掲載されたアジア認識を比較することを目的とする。

### 3. 研究の方法

(1) 本研究では 師範学校とアジア認識という領域と主題を対象とするため、日本と韓国の歴史教科書の分析(『日韓で考える歴史教育』明石書店, 2010年)を行ってきた梅野正信を研究代表者とし、中等学校における校友会雑誌の調査研究で成果を持つ斉藤利彦(学習院大学)、東アジアの歴史認識研究を専門とする高吉嬉(山形大学)、戦前期朝鮮の教育史研究を専門とする國分麻里(筑波大学)を研究分担者とした。また、海外共同研究者である、牛志奎(北京師範大学)、徐鍾珍(韓国東北亜歴史財団)、金恩淑(韓国紀要イン大学校)、呉文星(台湾師範大学)を加えて、資料収集を行った。

(2) 生徒による散文を中心とする記述の分析を通して、校友会雑誌に醸成されたアジア認識の抽出、整理、分類、考察を行った。

### 4. 研究成果

(1) 戦前期における日本統治地域の校友会雑誌の資料収集については、1)日本人生徒が大半を占める校友会雑誌としては、台北第一中学校、台南第一中学校、台中第二中学校、基隆中学校、嘉義中学校、花蓮港中学校、台北第一師範学校、台北第一高等女学校、京城中学校、京畿中学校、平壤中学校、大田中学校、群山中学校、大邱中学校、京城第一高等女学校、平壤高等女学校、公州高等女学校、釜山高等女学校、京城師範学校、平城師範学校、光州師範学校、京城女子師範学校、大連第一中学校、大連第二中学校、旅順高等女学校・旅順女子師範学校、新京中学校、奉天中学校、奉天第二中学校、吉林第一中学校、旅順第二中学校、豊原中学校、大泊高等女学校、等の校友会雑誌を収集もしくは複写した。2) 被統治地域民衆子弟の記述もみられる校友会雑誌としては、台北第二師範学校、台中師

範学校、台南師範学校、台北第三中学校、台北第二高等女学校、台北第三高等女学校、台南第二高等女学校、基隆高等女学校、高雄淑徳女学校、嘉義高等女学校、花蓮高等女学校、成淵女学校、大邱師範学校、等の校友会雑誌を収集もしくは複写した。3) ほとんどが被統治地域民衆子弟の記述で占められる校友会雑誌としては、私立台北中学校、長栄中学校、京畿第一高等普通学校、京畿第二高等普通学校、培材学堂、海州高等普通学校、大邱高等普通学校、光州高等普通学校、東菜女学校、などの校友会雑誌を収集・複写した。

(2) 資料集所にあたっては、白柳弘幸氏の厚誼を受けて玉川大学教育博物館の資料を、海外研究協力者である呉文星名誉教授(台湾師範大学)の尽力により国立台湾図書館の資料を、金恩淑教授(韓国教員大学校)の尽力により韓国教員大学校教育博物館収集の校友会雑誌、現在の韓国国内高等学校が所蔵する校友会雑誌の閲覧複写を収集、複写することができた。これにより、台北第一中学校、台北第二師範学校、台中師範学校、台南師範学校、京城中学校、群山中学校、大連第二中学校、豊原中学校は、経年的比較が可能な程度収集できた。

(3) 本研究の主な成果物としては、梅野正信「中等諸学校生徒のアジア認識の生成と相克」(『学校文化の史的探究』2015)、同「日本統治下中等学校の校友会雑誌にみるアジア認識-研究方法を中心に-」(2015)、また、本科研のメンバー全員によって、教育史学会第58回大会(2014年10月5日)でコロキウム「校友会雑誌記述にみる戦前期・中等諸学校生徒のアジア認識」を実施したこと、さらには、2015年11月13日・14日に台湾で開催された国際学術研究会「近代東亜の教育と社会」(台湾師範大学台湾史研究所、国立台湾歴史博物館、台湾教育史研究会)が、本研究メ

ンバーのほぼ全員が招かれて国際シンポジウムが開催されたことを、あげることができる。また、2015年3月に最終報告書(論文冊子体)を製本印刷した。

以下は、研究成果の概要である。

(4) アジア認識の語を明示する研究は、近代日本及び日本人がアジア諸国及びその人々との接触を通して生じた認識やイメージの傾向を論じることで、アジア認識としていくものが多い。本研究では、戦前期の日本帝国(民)、アジア諸国(民)及び欧米ならびにソビエトを中心とする諸国に対する言及の特色を取り出すことをもって、アジア認識の考察とした。

梅野正信(2015)から生徒記述による散文中のアジア認識に関わる箇所を抽出した上で、斉藤利彦(2015)の指摘(帝国イデオロギーを構成する時局認識、歴史認識、国家認識、民衆認識、文化認識)との整合性を核に何できる特徴を整理したものが、1) 優越と蔑視:皇国民としての優越感、アジア諸国民衆等に対する蔑視感情の記述。2) 貢献と犠牲:アジア大陸における日本の人的・物的貢献と犠牲の記述。3) 対中国非難:中国に対する批判と非難の記述。4) 対欧米非難:欧米及びソビエトに対する批判と非難の記述。5) 対国内非難:危機意識を背景に国内に向かう批判と非難の記述。6) 自省と相対化:日本、日本人を自省的に相対化する記述の、6点である。

(5) 表1は、1928年～1944年発行の臺北第一中学校の校友会雑誌『麗正』から、生徒記述散文において、前述6指標の存否を整理したものである。

表1 臺北第一中学校『麗正』(1928年～1944年)掲載生徒散文における6指標の存否

	優越と蔑視	対中国非難	対欧米非難	貢献と犠牲	対国内非難	自省と相対化

第36号(1928)						
第37号(1930)						
第38号(1931)						
第42号(1935)						
第43号(1936)						
第45号(1938)						
第47号(1940)						
第48号(1941)						
第49号(1942)						
第50号(1943)						
第51号(1944)						

(6) 表2は、盧溝橋事件(1937年)直後となる、1938年度発行の校友会雑誌から、臺北第一中学校、嘉義中学校、花蓮港中学校、臺北第一高等女学校、臺南第二高等女学校、臺北第一師範学校、臺北第二師範学校、臺中師範学校、臺南師範学校、京城公立中学校、京城第二高等普通学校、公州公立高等女学校、釜山公立高等女学校、東萊高等女学校、京城師範学校、平城師範学校、大連第二中学校、旅順高等女学校・旅順女子師範学校、新京中学校、奉天朝日高等女学校、豊原中学校について、記述中にみられる前述6視点の存否である。

表2 1938年校友会雑誌掲載生徒散文における6指標の存否

	優越と蔑視	貢献と犠牲	対中国非難	対欧米非難	対国内非難	自省と相対化
台北一中						
嘉義中						
花蓮港中						
台北一高女						
台南二高女						
台北一師						
台北二師						
台中師						
台南師						
京城中						
京城二高普						
公州高女						
釜山高女						
東萊日新女						
京城師						
平壤師						
大連二中						
旅順高女						
新京中						
奉天朝日高女						

(7)本研究では、1) 校友会雑誌において醸成されたアジア認識の構成要素を、校友会雑誌に掲載された生徒執筆散文を用いて整理し、下記表3の6つのカテゴリーと18のサブカテゴリーを抽出した。

表3 アジア認識の構成要素(6つのカテゴリーと18のサブカテゴリー)

優越と蔑視	道義的優越, 対米英戦への快哉と賛美, 皇民化と御為の死憐憫と蔑視
貢献と犠牲	欧米の侵略からの防御, 歴史的権益と犠牲, 現下の犠牲
対中国非難	敵対と融和, 膺懲と憐憫, 敵対的憎悪
対欧米非難	道義的優越, 真の敵, 敵対的憎悪
対国内非難	道義的批判, 非国民への指弾
自省と相対化	戦死を悼む思い, 時勢の相対化, 和平への期待

2) 時局に関わる散文では、同時期の政府声明等に組み込まれた「膺懲」「東洋平和」等の語句を用いた表現が多くみられ、閉鎖的な情報環境下・教育下にある生徒の思想的感化の様相を示すものとして確認できた。

3) 1938年度の校友会雑誌では、大陸侵攻を正当化する3つの論理(欧米の侵略からの防御, 歴史的権益と犠牲, 現下の犠牲)が抽出できた。大陸侵攻を正当化する論理と、戦死を美化する論理が一体化した実態を確認できた。

4) 生活を支配する物理的規制, 時代の支配的言語環境の中であって, それでも, 生徒自らの, 時勢を相対化する散文を見出すことができた。時勢を相対化する傾向においても, 現代の教育を自省的にふりかえる際の, 歴史の教訓を含むものといえよう。

<引用文献>

斉藤利彦編『学校文化の史的探究』東大出版会,2015年

梅野正信「日本統治下中等学校の校友会雑誌にみるアジア認識—研究方法を中心に—」

『上越教育大学研究紀要』第34巻,2015年3月,pp.53-65

5. 主な発表論文等

(研究代表者, 研究分担者及び連携研究者には下線)[雑誌論文](計 10件)

梅野正信, 日本統治下中等学校の校友会雑誌にみるアジア認識-研究方法を中心に-, 上越教育大学研究紀要, 査読なし, 34, 2015, 53-65

高吉嬭, 日本の中学校歴史教科書にみる「満州」認識, 韓国日本近代学会第31回国際学術大会論文集, 査読なし, 31, 2015, 255-258

高吉嬭, 東アジアにおける平和と友好のための教育課題, 終戦70周年東アジア関係の回顧と展望, 査読なし, 2015, 27-49

呉文星「植民統治におけるグレーゾーン-日本統治初期における台湾の社会的リーダー階層の隠退を例として-, 史潮, 査読有, 78, 2015, 44-65

呉文星, 長嶺林三郎與近代臺灣牛畜改良事業之展開, 臺灣學研究, 査読有, 18, 2015年12月, 1-16頁, 査読有。

國分麻里, 「国民史」を超える試み-歴史教科書の改善および共通教材の作成に関する研究動向-, 筑波教育学研究, 査読なし, 12号, 2014, 55-73

呉文星, 日治時期臺灣の水呉教育-以師資分析為中心, 國史館, 査読なし, 41, 2014, 43-75

斉藤利彦, 近代日本における校友会運動部の展開-学校文化研究へのアプローチ-, 学習院大学文学部研究年報, 査読無, 60編, 2013, 103-123

國分真理, 「東アジア史」における近代史の内容分析-日本に関する叙述を中心にして-, 中等社会科教育研究, 査読有, 31号, 2013, 125-134

呉文星, 日本植民地統治下台湾の教育について, 東洋史訪, 査読なし, 20, 2013, 33-53

[学会発表](計 11件)

梅野正信, 日本統治下中等学校校友会雑誌において醸成されたアジア認識, 国際シンポジウム:近代東亜の教育と社会 国際学術研究会, 台湾・台湾師範大学, 2015

高吉嬭, 日本の中学校歴史教科書にみる「満州」認識, 韓国日本近代学会第31回国際学術大会, 2015年5月9日, 韓国・嶺南大学。

高吉嬭, 東アジアにおける平和と友好のた

めの教育課題-「第2の罪」と「グローバル市民教育」の視点から-、第5回国際学術シンポジウム:終戦70周年東アジア関係の回顧と展望,韓国東義大学国際館,2015  
市山雅美,1940年前後の台湾の中学生のアジア認識-校友会雑誌の記述より-,国際シンポジウム「近代東亜の教育と社会 国際学術研究会」,台湾・台湾師範大学,2015  
呉文星,日治時期中學生的亞洲認識-以臺灣總督府國語學校的「修學旅行」為中心,近代東亞教育與社會國際學術研討會,台湾・台湾師範大学,2015  
呉文星,植民統治におけるグレーゾーン-日本統治初期における台湾の社会的リーダー階層の隠退を例として-,国際シンポジウム,明治大學駿河台キャンパス,2015  
梅野正信,校友会雑誌にみる中等諸学校生徒のアジア認識の生成と相克,第25回社会系教科教育学会研究発表大会,2014  
梅野正信,日本統治下における中等学校(師範学校を含む)校友会雑誌研究の意義と課題,教育史学会第58回大会,日本大学文理学部,2014  
呉文星,長嶺林三郎與近代臺灣畜吳改良之展開 以牛畜改良為中心,日本帝國與殖民地:人流與跨境國際學術研討會,臺北:中央研究院台灣史研究所,2014  
呉文星,日本統治下における台湾師範学校生徒の東アジア認識について-台南師範学校を中心に-,教育史学会第58回大会,2014  
呉文星,日治前期水吳講習會與臺灣近代水吳教育之發吳,近代東亞中的臺灣國際學術研討會,台湾:國立臺灣圖書館,2013

〔図書〕(計 2件)

齊藤利彦,梅野正信,高吉嬪,呉文星,市山雅美,徐鐘珍 他,戦前期における中等諸学校(師範学校)生徒のアジア認識に関する総合的研究最終成果報告書(論文集),2016,158,33-56,9-20,119-134  
齊藤利彦,梅野正信,市山雅美,森田智幸,茂木謙之介,稲垣恭子 他,東大出版会,学校文化の史的探究,2015,374,331-356

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:  
国内外の別:

取得状況(計 0件)

名称:

発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
取得年月日:  
国内外の別:

〔その他〕  
ホームページ等  
<http://www.juen.ac.jp/lab/umeno/umenoasia.htm>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

梅野 正信 (UMENO, Masanobu)  
上越教育大学・学校教育研究科・教授  
研究者番号: 50203584

(2) 研究分担者

齊藤 利彦 (SAITO, Toshihiko)  
学習院大学・文学部・教授  
研究者番号: 20178495

(3) 研究分担者

高 吉嬪 (KO, Kilhee)  
山形大学・教育文化学部・教授  
研究者番号: 20344781

(3) 研究分担者

國分 麻里 (KOKUBU, Mari)  
筑波大学・人間総合科学研究科・准教授  
研究者番号: 10566003